



伊東祐二教授

抗体を利用したバイオ創薬の研究を、鹿児島大学大学院理工学研究科の伊東祐二教授(抗体工学)らのグループが、東京薬科大、鳥取大と共同で行う。鹿大が1日、

標的狙い撃ち 抗体薬開発へ

伊東教授によると、新たな高機能性DDS(薬物送達システム)を用いて、抗体と結合させる技術を独自開発。今回の研究はその技術

鹿大・伊東教授ら共同研究

発表した。日本医療研究開発機構(AMED)の支援事業で、脳の難病などの治療薬開発が期待される。作用も抑えられるという。

難病治療に期待

をより進化させ通常は抗体が通りにくい脳の神経細胞に薬剤を届ける。手足の震えや精神症状などが起こる遺伝性神経疾患「ハンチントン病」などの治療薬実用化を目指す。伊東教授は「希少疾患で培った技術を将来的にはアルツハイマー病などの治療にもつなげたい」と話している。

【問1】鹿児島大学が発表した伊東教授らが行う研究は、どんな研究なのでしょう。

抗体を利用したバイオ創薬

【問2】この研究で何が期待されているのでしょうか。

脳の難病などの治療薬開発

【問3】この研究の特長について書かれている文の()に言葉を入れましょう。

新たな高機能性DDSを用いて、(抗体)と(薬剤)を化学的に結びつけることで、(脳)など標的の(臓器)を狙い撃ちできる。

【問4】伊東教授は、将来的にどんな病気の治療にもつなげたいとコメントしているでしょう。

アルツハイマー病

【考えてみよう】脳に関係する病気にはどんなものがあるか調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

抗体(こう・たい) = 体内に入ってきたウイルスや細菌などの異物(抗原)と結びついて排除するタンパク質のこと。

医療(いりょう) 支援(し・えん) 薬剤(やく・ざい) 狙(ねら)い撃(うち) 抑(おさ)え 細胞(さい・ぼう) 震(ふる)え 症状(しょう・じょう) 疾患(しつ・かん) 培(つちか)う = 大切に養(やしな)い育てること。

